

第 4 0 4 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和 8 年 7 月 3 1 日

日 本 学 術 会 議

Ⅲ 公 開 審 議 事 項

件名・議案		提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
1．協力学術研究団体関係						
提案 1	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	会長	5	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①一般社団法人環境DNA学会 ②日本双生児研究学会 ※令和8年7月31日現在2,222団体（上記申請団体を含む）	三枝副会長	会則36条
2．国際関係						
提案 2	令和8年度代表派遣について、実施計画を変更等すること	会長	6	令和8年度代表派遣について、実施計画の変更等をする必要があるため。	日比谷副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規第21条
3．シンポジウム等						
提案 3	公開シンポジウム「フューチャー・デザイン2026」の開催について	経済学委員会委員長・環境学委員会委員長	7	主催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、一般財団法人キャノングローバル戦略研究所 日時：令和8年9月5日（土）9：50～17：30 令和8年9月6日（日）9：15～13：40 場所：オンライン開催 ※第一部承認	－	内規別表第2
提案 4	公開シンポジウム「わが国の食料安全保障」の開催について	農学委員会委員長	11	主催：日本学術会議農学委員会農業経済学分科会 日時：令和8年9月8日（火）13：00～17：30 場所：東京大学農学部弥生講堂一条ホール（東京都文京区）（ハイブリッド開催を予定） ※第二部承認	－	内規別表第2
提案 5	市民公開講座「未来の学術振興構想：共に創ろう30年後の日本！」の開催について（案）	科学者委員会委員長	14	主催：日本学術会議科学者委員会学術研究振興分科会 日時：令和8年9月12日（土）10:30～12:00 場所：テレコムセンタービル（東京都江東区） ※科学者委員会承認	－	内規別表第2
提案 6	公開シンポジウム「日本学術会議地理教育・ESD分科会見解【ESD充実のための小学校・中学校・高等学校までの地理教育一貫カリキュラムに向けて】の実装へ」の開催について	地域研究委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長	16	主催：日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育・ESD分科会、公益社団法人日本地理学会 日時：令和8年9月12日（土）14：00～17：00 場所：九州大学伊都キャンパス（福岡県福岡市西区） ※第一部承認	－	内規別表第2

提案7	公開シンポジウム 「公共的価値を支える知としての「デザイン」の実践のために（仮）」の開催について	土木工学・建築学委員会委員長	18	主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会デザインをめぐる知の構築と社会的理解分科会 日時：令和8年9月15日（火）15：00～17：00 場所：オンライン開催 ※第三部承認	－	内規別表第2
提案8	公開シンポジウム 「日本の食文化を世界へ、そして未来へ～飼料生産から食卓まで、和牛ブランドを支える技術革新～」の開催について	食料科学科学委員会委員長	20	主催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会、公益社団法人日本畜産学会 日時：令和8年9月17日（木）14：30～17：30 場所：宮崎大学農学部（宮崎県宮崎市）（ハイブリッド開催） ※第二部承認	－	内規別表第2
提案9	公開シンポジウム 「人口減少社会における地方都市の未来価値」の開催について	地域研究委員会委員長、農学委員会委員長	22	主催：日本学術会議農学委員会地域総合農学分科会、地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会、愛媛大学未来価値創造機構 日時：令和8年9月18日（金）13：30～16：00 場 所：愛媛大学南加記念ホール（愛媛県松山市）（ハイブリッド開催） ※第一部、第二部承認	－	内規別表第2
提案10	公開シンポジウム 「更なる劇的進化を続ける生成AIの現状を理解しよう！」の開催について	情報学委員会委員長	24	主催：日本学術会議情報学委員会、情報学委員会ITの生む諸課題検討分科会 日時：令和8年9月24日（木）10：00～17：10 場所：日本学術会議講堂（東京都港区）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	－	内規別表第2
提案11	公開シンポジウム 「観光・科学・野生動物保全をつなぐーThe Tourist Scientist Projectの挑戦ー」の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、環境学委員会委員長	27	主催：日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同ワイルドライフサイエンス分科会、環境学委員会環境政策・環境計画分科会、環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会 日時：令和8年9月26日（土）13:00～16:30 場所：東京大学農学部 中島董一郎記念ホール（東京都文京区） ※第二部承認、第三部承認	－	内規別表第2
提案12	公開シンポジウム 「農学が創る未来：緑の革命3.0」の開催について	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長	30	主催：日本学術会議農学委員会、食料科学委員会 日時：令和8年9月26日（土）13：00～17：30 場所：日本学術会議6A（1）（2）会議室（東京都港区）（ハイブリッド開催を予定） ※第二部承認	－	内規別表第2
提案13	公開シンポジウム 「見解：サービス化社会における共創価値の尺度について」の開催について	経営学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長、総合工学委員会委員長	33	主催：日本学術会議経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会 日時：令和8年9月27日（日）13:00～15:30 場所：明治大学駿河台キャンパスグローバルフロント多目的室（東京都千代田区）（ハイブリッド開催） ※第一部承認	－	内規別表第2

提案14	公開シンポジウム 「フューチャー・アースの推進と連携：Future Earth Japan Report 2026へ向けた学術的課題の個別・横断的な整理（仮）」の開催について	環境学委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会委員長	36	主催：日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会地球環境変化の人的側面分科会、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会SDGsの進捗評価分科会、環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会 日時：令和8年9月27日（日）13：00～16：00 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第2
提案15	公開シンポジウム 「生命科学データのオープンサイエンスの再構築」の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、農学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、薬学委員会委員長、情報学委員会委員長	39	主催：日本学術会議統統合生物学委員会・基礎生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同IUPAB分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同ゲノム科学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会合同遺伝資源分科会 日時：令和8年9月27日（日）13：00～18：05 場所：日本学術会議講堂（東京都港区） ※第二部承認	—	内規別表第2
提案16	公開シンポジウム 「公認心理師の国家的活用の在り方～職域の拡大と技量向上の責務」の開催について	心理学・教育学委員会委員長、社会学委員会委員長、法学委員会、臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	42	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会・社会学委員会・法学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同心身の健康・適応に対する心理学的支援分科会 日時：令和8年9月27日（日）13：15～15：15 場所：サンシャインシティ会議室（東京都豊島区） ※第一部承認	—	内規別表第2
提案17	公開シンポジウム 「現代社会における多様なリスクに対処する法とガバナンスのあり方」の開催について	法学委員会委員長、環境学委員会委員長	44	主催：日本学術会議法学委員会リスク社会と法分科会、環境学委員会環境政策・環境計画分科会 日時：令和8年9月28日（月）13：00～17：30 場所：日本学術会議講堂（東京都港区）（ハイブリット開催） ※第一部承認、第三部承認	—	内規別表第2
提案18	公開シンポジウム 「環境問題の解決と持続的水産業の両立を目指すブルーエコノミー気候変動対策を組み込んだ新たな水産業への科学的貢献を探る」の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、食料科学委員会委員長	46	主催：日本学術会議食料科学委員会水産学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学分科会 日時：令和8年9月30日（水）13：00～17：00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案19	公開シンポジウム 「デジタル・AIが拓くスマート歯科医学・歯科医療の未来」の開催について	歯学委員会委員長	49	主催：日本学術会議歯学委員会、臨床系歯学分科会、病態系歯学分科会、基礎系歯学分科会 日時：令和8年10月15日（木）15：45～17：15 場所：パシフィコ横浜国立大ホール（神奈川県横浜市西区）オンライン配信あり ※第二部承認	—	内規別表第2

提案20	公開シンポジウム 第21回防災学術連携 シンポジウム『地域 における災害対応力 をどう高めるか』の 開催について	防災減災学術連 携委員会委員長	51	主催：日本学術会議防災減災学術連携委 員会 日時：令和8年10月17日（土）～10月18 日（日）（2日のうちのいずれか90分枠） 場所：オンライン開催 ※課題別委員会のため無	－	内規別表第 2
提案21	公開シンポジウム 「大型プロジェクト によるバイオマテリ アル研究開発」の開 催について	臨床医学委員会 委員長、歯学委 員会委員長、化 学委員会委員 長、材料工学委 員会委員長	53	主催：日本学術会議材料工学委員会、材 料工学委員会・臨床医学委員会・歯学委 員会・化学委員会合同バイオマテリアル 分科会 日時：令和8年11月10日（火）9：00～ 11：30 場所：神戸国際会議場（兵庫県神戸市中 央区） ※第三部承認	－	内規別表第 2
提案22	日本学術会議中国・ 四国地区会議学術講 演会「栄養学を起点 とした大学の知と地 域・産業の新しい共 創エコシステム」の 開催について	科学者委員会委 員長	55	主催：日本学術会議中国・四国地区会 議、国立大学法人徳島大学 日時：令和8（2026）年11月14日（土） 13：00 ～ 17：00 場所：徳島大学先端酵素学研究所藤井節 郎記念医科学センター藤井節郎記念ホー ル（徳島県徳島市）（予定）（ハイブ リッド開催） ※科学者委員会承認	－	内規別表第 2
提案23	日本学術会議九州・ 沖縄地区会議学術講 演会「GXで拓く カーボンニュートラ ル社会（仮題）」の 開催について	科学者委員会委 員長	58	主催：日本学術会議九州・沖縄地区会議 日時：令和8（2026）年12月23日（水） 14：00 ～ 16：20 場所：J:COMホルトホール大分小ホール （大分県大分市）（予定）（ハイブリッ ド開催） ※科学者委員会承認	－	内規別表第 2

4．後援

提案24	国際会議の後援をす ること	会長	60	以下の国際会議について、後援の申請が あり、国際委員会において審議を行った ところ、適当である旨の回答があったの で、後援することとしたい。 ・2026年電磁界理論の先進的応用に関す る国際会議及びIEEE-APS無線通信におけ るアンテナ・伝搬に関する会議	日比谷 副会長	国際学術交 流事業の実 施に関する 内規第39条
提案25	国内会議の後援をす ること	会長	61	以下について、後援の申請があり、関係 する部に審議付託したところ、適当であ る旨の回答があったので、後援すること としたい。 ・化学工学会第57回秋季大会特別シンポ ジウム「2050年カーボンニュートラルへ の道」 ・化学工学会第57回秋季大会シンポジウ ム「経済安全保障と環境・資源・エネル ギーの持続可能性」	－	後援名義使 用承認基準 3（2）ウ

件名						資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は8月21日(金)13:30～開催予定。					62

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概 要
1	一般社団法人環境 DNA 学会 (https://ednasociety.org/)	本団体は、環境 DNA による研究及び、その応用研究の進歩と普及を図ることを通じて、社会に貢献することを目的とする。
2	日本双生児研究学会 (https://jsts.jp.net/)	本団体は、双生児の研究を通じて人類の福祉に貢献することを目的とする。

令和 8 年度代表派遣実施計画の変更等について

以下のとおり、令和 8 年度代表派遣実施計画（第 397 回幹事会（令和 8 年 2 月 27 日）にて承認済）の変更等を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	国際地理学連合（IGU）イスタンブール地域大会	8 月 17 日 ～ 8 月 21 日	イスタンブール (トルコ)	鈴木 康弘 連携会員 (名古屋大学減災連携研究センター教授)	地球惑星科学委員会 IGU 分科会	・代表派遣の取りやめ ※派遣元の変更に伴う派遣の取り消し
2	第 17 回国際大気化学と地球汚染に関する国際委員会(iCACGP)・第 19 回地球大気科学国際協同研究計画(IGAC)合同科学会議等	9 月 4 日 ～ 9 月 11 日 ↓ 9 月 6 日 ～ 9 月 13 日	イラクリオン (ギリシャ)	金谷 有剛 連携会員 (国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境部門地球表層システム研究センターセンター長)	環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会	・会期の変更
3	「地球力学と地球回転の研究動向に関するシンポジウム」「全球統合測地観測システム(GGOS)テーマ会議」「国際測地学協会(IAG)第 9 回執行委員会」	9 月 28 日 ～ 10 月 3 日 ↓ 9 月 28 日 ～ 10 月 4 日	イエブレ (スウェーデン)	古屋 正人 連携会員 (北海道大学大学院理学研究院地球惑星科学部門教授)	地球惑星科学委員会 IUGG 分科会	・会期の変更
4	G サイエンス 学術会議 2027	未定	ワシントン D.C. (アメリカ)	—	国際委員会	・代表派遣の取りやめ ※令和 9 年度の開催が決定したため。

公開シンポジウム
「フューチャー・デザイン 2026」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、一般財団法人キャノングローバル戦略研究所
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年9月5日（土） 9：50 ～ 17：30
令和8（2026）年9月6日（日） 9：15 ～ 13：40
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：未定

8. 開催趣旨：

私たちは現在、様々な脅威に直面しています。ここでいう「脅威」とは、人類の存続可能性を含む多様な課題を指します。頻発する戦争、政治的な分断、経済危機などに加えて、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、窒素循環の崩壊、食料安全保障の危機など、相互に関連した複合的な問題群です。

一方で、私たちは「目先の利益を差し置いてでも、将来世代のしあわせを目指すことでしあわせを感じる」能力を持っているのではないのでしょうか。これを「将来可能性」と名付け、フューチャー・デザイン(Future Design, FD)は、将来世代に大きな負荷をかけてしまう「脅威」を回避するために、私たちが「将来可能性」を発揮できる社会のデザインを目指しています。

本シンポジウムは既に8回開催されていますが、「フューチャー・デザイン 2026」では、十倉雅和氏（住友化学株式会社相談役、一般社団法人日本経済団体連合会名誉会長）に彼が経団連の会長をなさった時に策定した「社会性の視座～FUTURE DESIGN 2040～」について基調講演をお願いしています。中学、高校、大学でもFDが始まっています。先生方がどのようにFDを実践しているのかについての報告と討議が予定されています。その

ほか、FD×デザイン思考、文化遺産のFD、財務省のFD、地域のFD など様々な報告があります。

9. 次 第：

フューチャー・デザイン 2026 プログラム		
9/5(土)		
	司会：小林 慶一郎（一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所研究主幹／慶應義塾大学教授）	
9:50	開会挨拶	小林 慶一郎（一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所研究主幹／慶應義塾大学教授）
10:00	基調講演	「社会性の視座～FUTURE DESIGN 2040～」 十倉 雅和（住友化学株式会社相談役／一般社団法人日本経済団体連合会名誉会長）
	司会：中川 善典（日本学術会議連携会員／上智大学大学院地球環境学研究科教授）	
11:00	特別報告	【FD×デザイン思考（仮）】 佐藤 カズー（株式会社地球中心デザイン研究所 CEO/CCO）、 中川 善典（日本学術会議連携会員／上智大学大学院地球環境学研究科教授） 11:00-11:10 主旨説明 11:10-11:40 「サステイナブル社会へ移行するアプローチとしてのデザイン思考」佐藤 カズー 11:40-12:00 「TBA」中川 善典 12:00-12:30 パネル討議
12:30	昼休み	
	司会：高橋 雅明（矢巾町学校教育課課長）	
13:15	一般報告	「文化遺産のフューチャー・デザイン（仮）」 山田 大樹（帝京大学文化財研究所講師）
13:45	一般報告	「将来世代への想像力を高めるために～財務省「はじめてのフューチャー・デザイン」における取組～（仮）」 入谷 康平（財務省主計局調査課課長補佐）、 市岡 敦子（株式会社日本総合研究所）
14:15	一般報告	「矢巾町における FD 制度化の取組について」 高橋 雅明（矢巾町学校教育課課長）
14:45	休憩	
	司会：廣光 俊昭（財務総合政策研究所客員研究員）	

14:55	一般報告	「将来世代への配慮を促す制度変化はいかに進むのか：矢巾町の事例から」 尾上 成一（東京大学特任研究員／慶應義塾大学大学院特任助教）
15:25	一般報告	「新潟県飯山の農地集約（仮）」 中嶋 晋作（明治大学准教授）
15:55	休憩	
	司会：西村 直子（日本学術会議連携会員／立命館大学教授／大阪大学社会経済研究所特任教授）	
16:00	一般報告	“The Art of Building Long-Lasting Organisations” Nick Barter (Griffith University (Brisbane, Australia) and Future Normal)
16:30	一般報告	「分断と反知性主義のアメリカ——人類規模の危機との関わりから」 廣光 俊昭（財務総合政策研究所客員研究員）
17:00	一般報告	「スペースデブリ問題に対する予防的制御をめぐる「法接合」デザイン・アプローチ「未来政策の社会実装」という観点から——」 中山 敬太（早稲田大学社会科学総合学術院講師）
17:30	閉会挨拶	西村 直子（日本学術会議連携会員／立命館大学教授／大阪大学社会経済研究所特任教授）

9/6(日)		
	司会：岡本 剛（九州大学基幹教育院准教授）	
9:15	特別報告	【大学教育におけるFD導入】 「TBA」 武田 友加（九州大学基幹教育院准教授）
9:45		「未来から考えるきっかけ作り」 木村 岳裕（金沢大学国際基幹教育院准教授）
10:15	特別報告	【中学・高校教育におけるFD導入】 「公立中学校における財政×フューチャー・デザインの実践」 高橋 克志（埼玉県宮代町立百間中学校）
10:35		「持続可能な社会の形成者育成をめざした実践研究单元「将来世代を考慮した制度を考える」の開発」 大塚 雅之（大阪府立三国丘高等学校）

10:55		「通信制高校における未来意思形成型キャリア教育の実践研究―将来可能性を基盤とした生徒の納得解に焦点をあてて―」 岩橋 嘉大（兵庫県立青雲高等学校） 総合質疑
11:15		
11:30	一般報告	「フューチャー・デザインによる目標設定法の構築とトライアスロン競技への応用」 山中 翔陽（九州大学大学院博士課程2年）、岡本 剛（九州大学基幹教育院准教授）
12:00	昼休み	
	司会：小林 慶一郎（一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所研究主幹／慶應義塾大学教授）	
12:30	一般報告	「ネパールでの未来首相ワークショップの実践について」 倉阪 秀史（千葉大学大学院社会科学研究院教授）
13:00	一般報告	「フューチャー・デザインを活用した財政教育×模擬選挙の実践と社会実装への展望―政策選好と投票行動の関係に着目して―」 服部 将昌（学生団体財政教育フロンティア代表）、中田 裕己（N高グループ政治部）
13:30	閉会挨拶	岡本 剛（九州大学基幹教育院准教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「わが国の食料安全保障」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会農業経済学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：農林水産省、一般社団法人日本農学会、公益財団法人農学会、日本農学アカデミー、農業経済学関連学会協議会、一般社団法人全国農業協同組合中央会、一般財団法人食品産業センター、東京大学大学院農学生命科学研究科（すべて予定）
4. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 8 日（火）13：00 ～ 17：30
5. 場 所：東京大学農学部弥生講堂一条ホール（東京都文京区弥生 1-1-1）
（ハイブリッド開催を予定）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨
政府は、2024 年に食料・農業・農村基本法の改正を行った。その背景には、わが国の食料の安定供給と確保の面で、輸入及び国内生産の情勢、不測時並びに平常時における食料アクセスそれぞれにおいていくつもの懸念が現れてきたことがある。基本法の改正では、政策の基本理念において、あらためて「食料安全保障政策の確保」がうたわれることとなり、「良質な食料が合理的な価格で供給され、かつ、国民一人一人がこれを入手できる状態」の確保を図ることとされた。基本法改正後に策定された新たな基本計画において、食料安全保障強化のための方策が提起されている。そのような中、突然の中東情勢の変化等によって、食料安全保障をめぐる更なる課題が発生することとなった。本シンポジウムでは、わが国の食料安全保障をめぐる現状と課題を、行政、実務家の意見も交えながら、短期及び中長期の視点から多角的に整理をし、今後を展望する。
9. 次 第

司会：清原 昭子（日本学術会議連携会員／福山市立大学都市経営学部教授）

13:00 開会挨拶 立川 雅司（日本学術会議連携会員／名古屋大学大学院環境学研究
科教授）

■わが国の食料安全保障政策（第一部）

13:10 第1報告：「わが国の食料安全保障政策の概要」

中嶋 康博（日本学術会議第二部会員／日本栄養大学栄養学部教授）

■中東情勢と食料安全保障（第二部）

13:30 第2報告：「中東情勢の悪化による化学肥料価格上昇が世界小麦需給に及ぼす
影響－ 世界小麦需給モデルによる予測と化学肥料をめぐる国際的な政策の
課題－」

小泉 達治（農林水産省農林水産政策研究所上席主任研究官／東北大学大学院農学研究
科教授（連携講座））

13:50 第3報告：「途上国における食料安全保障と栄養の課題」

白鳥 佐紀子（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

■環境問題・先端技術と食料安全保障（第三部）

14:10 第4報告：「食料安全保障に貢献する農業バイオテクノロジーの可能性」

吉田 均（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門
主席研究員）

14:30 第5報告：「気候緩和と食料安全保障：長期シナリオ分析の視点から」

藤森 真一郎（日本学術会議連携会員／京都大学大学院工学研究科教授）

14:50 第6報告：「生物多様性と食料安全保障」

橋本 禅（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

《20分休憩》

15:10 第7報告：「食料安全保障における水産業の役割と将来課題」

八木 信行（日本学術会議連携会員／東京大学特命教授室特命教授）

■総合討論 司会：青柳 みどり（日本学術会議連携会員／中央大学総合政策学部教
授）

15:50 コメント及び討論

宮本 亮（農林水産省大臣官房参事官）

大角 亨（一般財団法人食品産業センター専務理事）

紺野 和成（公益社団法人日本農業法人協会専務理事）

平野 路子（日本生活協同組合連合会政策企画室長）

芝田 雄司（特定非営利活動法人セカンドハーベスト・ジャパン CEO）

豊川 佑（丸紅株式会社穀物油糧部穀物課長）

第一部～第三部報告者

17:25 閉会挨拶：渡辺 京子（日本学術会議第二部会員／玉川大学農学部教授）

10. 関係部の承認の有無： 第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

市民公開講座
「未来の学術振興構想：共に創ろう 30 年後の日本！」
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議科学者委員会学術研究振興分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 12 日（土）10:30 ～ 12:00
5. 場 所：テレコムセンタービル（東京都江東区青海 2-5-10）
※サイエンスアゴラ 2026 の中の一企画案
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：なし

8. 開催趣旨：

日本学術会議「未来の学術振興構想」は、今後 20～30 年先を見据えた学術振興の 19 のグランドビジョンと、その実現に向け今後 10 年程度で取り組むべき「学術の中長期研究戦略」から成る、我が国の学術の将来像を示す重要な提言である。本企画では、これらの研究戦略を 6～8 名の研究者が、中高生を含む一般市民に向け、各構想の魅力と社会的意義を発信する。行政・政治の関係者をゲストに迎え、フロアからの質疑応答も交えながら「30 年後の日本に必要な研究とは何か」を共に考える 90 分とする。来場者には研究の知的興奮と未来構想に触れる機会を、出展側は市民の率直な疑問・期待・優先順位感覚を直接得る機会を提供する。

9. 次 第：

司会：山崎 典子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授）

【オープニング】

10:30～10:45 開会挨拶、「未来の学術振興構想」と本企画の趣旨説明

森田 一樹（日本学術会議第三部会員／日本製鉄株式会社顧問／東京大学名誉教授／大阪大学大学院工学研究科特任教授）

【本編】（構想説明＋質疑応答）

- 10:45～10:55 「200 大学集合！目指せグリーン社会変革」
岡田 小枝子（大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所准教授）
- 10:55～11:05 「大強度低速陽電子ビームによる物性科学・基礎科学の革新的展開」
長嶋 泰之（日本陽電子科学会会長／東京理科大学理学部教授）
- 11:05～11:15 「染色体ラボを拠点とした生命科学分野における教育および研究力の高度化の実現へ向けて」
田辺 秀之（一般財団法人染色体学会理事長／総合研究大学院大学統合進化科学研究センター准教授）
- 11:15～11:25 「アンデス高原で宇宙最高エネルギーの光を追うアルパカ実験」
さこ 隆志（東京大学宇宙線研究所教授）
- 11:25～11:35 「大型液体キセノンを用いた宇宙暗黒物質直接検出実験（XLZD 実験計画の推進）」
山下 雅樹（名古屋大学宇宙地球環境研究所宇宙線研究部教授）

【総合討論】

- 11:35～11:55 未回答の質問の整理、クロストーク
モデレーター：宮川 剛（日本学術会議連携会員／藤田医科大学研究推進本部総合医科学研究部門医科学研究センターシステム教授）

【クロージング】

- 11:55～12:00 まとめ、閉会挨拶
山本 晴子（日本学術会議第二部会員／国立研究開発法人国立循環器病研究センター理事）

構想説明の登壇者は、提言案「未来の学術振興構想（2026 年版）」が示す予定の 19 のグランドビジョンに属する「学術の中長期研究戦略」を代表する研究者であるが、登壇者の追加・変更の可能性あり。総合討論モデレーターについては、プロの科学コミュニケーションのサポートを検討中。

10. 関係部の承認の有無：科学者委員会承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「日本学術会議地理教育・ESD 分科会見解【E S D 充実のための小学校・中学校・高等学校までの地理教育一貫カリキュラムに向けて】の実装へ」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育・ESD 分科会、公益社団法人日本地理学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：地理学連携機構
4. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 12 日（土）14：00 ～ 17：00
5. 場 所：九州大学伊都キャンパス（福岡県福岡市西区元岡 744）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：

日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育・ESD 分科会は、2026 年 5 月 20 日に見解「E S D 充実のための小学校・中学校・高等学校までの地理教育一貫カリキュラムに向けて」を発出した。本見解は、現在、ESD（Education for Sustainable Development）、つまりは持続可能な社会の創り手を育む教育が、小学校から高等学校まで各教科等で段階的に効果的に行われているとはいえないという問題意識から発出された。

本シンポジウムでは、持続可能な社会づくりの能力の育成を目指すための本見解がどのように実装され、どのような効果をもたらすのかを検証し、見解の実装を図るものである。具体的には、①趣旨と「見解」の概要、②世界地誌学習とフィールドワーク、③小学校での実践、④ユネスコと ESD の観点、⑤海外研究とのかかわり、⑥メディアからの視点、から討論を深めていく。多角的に本見解の実装を検討し、教育関係者をはじめ多くの方に見解を理解してもらい、ESD 充実に向けた小学校から高等学校までの地理教育一貫カリキュラム、さらには分野や教科を超えた融合的な学習を、柔軟に組み入れられるカリキュラムを作成しやすいような学習指導要領の実現に貢献したい。

9. 次 第：

総合司会：由井 義通（日本学術会議連携会員／呉工業高等専門学校校長／広島大学名誉教授）

14：00～14：10 報告1：趣旨と「見解」の概要

井田 仁康（日本学術会議連携会員／立正大学地域環境科学部特任教授／筑波大学名誉教授）

14：10～14：30 報告2：小学校段階における「世界との出会い」の日常化と体系化

村山 朝子（日本学術会議連携会員／茨城大学名誉教授）

14：30～14：50 報告3：「世界の見方・考え方」を働かせる小学校社会科授業の体系化

中谷 佳子・小磯 友佑・山本 修平・岩野 敬（千葉大学教育学部附属小学校）

14：50～15：10 報告4：ユネスコスクールにおけるESDと体験と探究そして地理の存在価値

永田 忠道（広島大学大学院人間社会科学研究科教授／広島大学附属東雲小学校・附属東雲中学校校長）

15：10～15：30 報告5：地域研究の視点から探究活動を再考する―地誌学習とフィールドワークの意義―

森本 泉（日本学術会議連携会員／明治学院大学国際学部教授）

15：30～15：50 報告6：メディアの視点をESDに―社会と小中高大学をつなぐ取り組みから―

山口 勝（横浜国立大学総合学術高等研究院客員教授）
（休憩）

16：00～16：10 コメント（指定討論者）

志村 喬（上越教育大学理事・副学長）

16：10～17：00 総合討論

オーガナイザー：井田 仁康（日本学術会議連携会員／立正大学地域環境科学部特任教授／筑波大学名誉教授）・村山 朝子（日本学術会議連携会員／茨城大学名誉教授）・由井 義通（日本学術会議連携会員／呉工業高等専門学校校長／広島大学名誉教授）・久保 純子（日本学術会議連携会員／早稲田大学教育・総合科学学術院教授）・山野 博哉（日本学術会議連携会員／東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「公共的価値を支える知としての「デザイン」の実践のために（仮）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会デザインをめぐる知の構築と社会的理解分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：土木学会、建築学会等関連学協会に依頼することを検討中
4. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 15 日（火）15：00 ～ 17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：検討中

8. 開催趣旨：

本分科会は日本学術会議第 25 期、第 26 期に「デザイン」をテーマとして議論し、その結果を「デザインをめぐる知の構築と社会的理解に向けて― 公共的価値を支える多様な知と実践へ ―」と題した「報告」としてまとめ、2026 年 6 月 5 日に公表しました。

この報告では、主に以下を述べています。

「デザイン」という語は、今日、造形や意匠のみならず、制度、情報、サービス、地域運営、教育、政策形成など、幅広い領域で用いられている。その一方でその意味や役割は分野ごとに異なり、共通理解は必ずしも十分ではない。こうした概念のずれは、分野横断的な協働や、公共的価値の創出に向けた実践の障壁ともなっている。そのためデザインの社会的理解をひろげるためのアプローチとして、①歴史からみたデザイン概念の再認識と社会的理解の促進、②公共領域におけるデザインの質を支える制度的基盤の形成、③公共プロジェクトの制度・調達・評価の改善、④学術と実務をつなぐプラットフォームの確立、⑤教育と人材育成の強化、の 5 点を提示した。

この報告は、土木、建築分野の状況を想定した議論をもとにしていましたので、異なる分野からのデザインをめぐる議論も交えて、公共的価値を支えるデザインを実践するための広義の学術の未来を展望したいと思います。

9. 次 第：

- 司会： 小野 悠（日本学術会議連携会員／豊橋技術科学大学大学院工学研究科
准教授）
- 15:00 開会挨拶と趣旨説明
佐々木 葉（日本学術会議第三部会員／早稲田大学理工学術院教授）
- 15:05 第一部 分科会報告
「土木・建設分野からみたデザインの課題と展望」
田井 明（日本学術会議連携会員／福岡工業大学社会環境学部社会環境
学科教授）
「歴史から考えるデザイン」
近藤 存志（日本学術会議連携会員／東洋大学福祉社会デザイン学部人
間環境デザイン学科教授）
- 15:30 第二部 様々な分野から考えるデザイン
「持続可能性から考えるデザイン（仮）」
馬奈木 俊介（日本学術会議第一部会員／九州大学大学院工学研究院都
市システム工学講座教授）
「伝えることから考えるデザイン（仮）」
大田 暁雄（武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科教授）
「気候変動から考えるデザイン（仮）」
江守 正多（日本学術会議連携会員／東京大学未来ビジョン研究センタ
ー教授／国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領
域上級主席研究員）
- 16:00 総合討論「公共的価値を支える知としてのデザインの実践に向けて」
コーディネーター：伊藤 香織（日本学術会議連携会員／東京理科大学創域
理工学部建築学科教授）
登壇者：前掲の話題提供をいただいた皆さん
- 16:55 閉会挨拶
斎尾 直子（日本学術会議連携会員／東京科学大学環境・社会理工学院建
築学系教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「日本の食文化を世界へ、そして未来へ
～飼料生産から食卓まで、和牛ブランドを支える技術革新～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分会、公益社団法人日本畜産学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：公益財団法人伊藤記念財団
4. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 17 日（木）14：30 ～ 17：30
5. 場 所：宮崎大学農学部（宮崎県宮崎市学園木花台西 1-1）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

近年、畜産業を取り巻く環境は大きく変化しており、資源価格の高騰や環境負荷低減への要請、さらには国際市場における競争激化への対応が求められています。このような状況の中で、日本の畜産が持続的に発展していくためには、生産現場における効率化と高付加価値化を両立させる取り組みが不可欠です。特に飼料利用性の向上は、資源の有効活用や生産コストの低減のみならず、環境負荷の軽減にもつながる重要な課題です。近年では、スマート農業技術やゲノム育種技術の発展により、飼料効率を高める新たな可能性が広がっています。一方、和牛の国際展開は、単なる輸出拡大にとどまらず、各国・地域の食文化や生産環境に適応した新たな価値創出を通じて、「WAGYU」ブランドの国際的な確立と発展を目指す取り組みとして注目されています。

本シンポジウムでは、「持続可能な畜産」「ブランド戦略」「技術革新」をキーワードに、飼料生産から肥育、流通、消費までを俯瞰しながら、日本の食文化を代表する和牛ブランドを支える技術とその将来展望について議論します。飼料利用性の向上を世界市場で通用する和牛生産の基盤技術として位置付け、生産者、研究者、関連産業が連携して描く持続可能な畜産の未来像を共有する機会としたいと思います。

9. 次 第：

司会：井戸田 幸子（宮崎大学農学部教授）

14:30-14:35 開会の挨拶

菊地 和弘（日本学術会議連携会員（特任）／公益社団法人日本畜産学会理事長／北里大学獣医学部教授）

第1部：飼料利用性：持続可能な和牛生産を目指して

座長：西村 慶子（宮崎大学農学部准教授）

14:35 「あなたの研究はどこで生きるか：畜産分野の政策課題と研究資金」

西尾 元秀（農林水産省技術会議事務局・畜産局畜産振興課研究専門官）

15:00 「肉用牛の飼料利用性改良をめぐる研究動向と今後の展開」

竹田 将悠規（東北大学大学院農学研究科・農学部助教）

15:35 「飼料資源の有効活用による持続可能な和牛生産」

神谷 充（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門上級研究員）

16:10-16:20 休憩

第2部：和牛の国際展開：世界市場に挑む日本の畜産

座長：河原 聡（宮崎大学農学部教授）

16:20 「県産牛肉の販路拡大に向けた取組」

西 洋平（宮崎県農政水産部畜産局畜産振興課肉用牛振興担当主査）

16:45 「枝肉画像解析による和牛肉質評価の高度化とブランド価値創出」

口田 圭吾（帯広畜産大学畜産学部教授）

17:20 閉会の挨拶

木村 直子（日本学術会議第二部会員／山形大学大学院農学研究科教授／岩手大学大学院連合農学研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「人口減少社会における地方都市の未来価値」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会地域総合農学分科会、地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会、愛媛大学未来価値創造機構
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本生物環境工学会、日本農業気象学会、日本農業経済学会、日本農業工学会、公益社団法人農業農村工学会、農村計画学会、地理学連携機構、公益社団法人日本地理学会（すべて予定）
4. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 18 日（金）13:30 ～ 16:00
5. 場 所：愛媛大学南加記念ホール（愛媛県松山市文京町 3）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：
人口減少や地域構造の変化が加速する中、地方都市の将来像が改めて問われている。こうした状況を踏まえ、日本学術会議農学委員会地域総合農学分科会と地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会では、それぞれの学術的立場から人口縮小社会における国土のあり方を検討し、今期にそれぞれ「報告」として意見を取りまとめた。
一方、愛媛大学では令和 6 年度より「未来価値創造機構」を設立し、特に地方における新たな未来価値の創出に向けて、多様な議論や論点の発信に取り組んでいる。
本シンポジウムは、2 つの分科会による「報告」の内容を広く社会に共有するとともに、分科会と愛媛大学未来価値創造機構との交流を通じて、さらなる総合知の創出を目指すものである。分科会からの報告を受けたパネルディスカッションでは、地域の持続可能性や未来価値について、多様な視点から議論を深める。学術的知見と現場の経験を交差させることで、これからの地域が持つ可能性を展望する機会としたい。
9. 次 第：
13:30 開会挨拶・趣旨説明

仁科 弘重（日本学術会議農学委員会地域総合農学分科会委員長・連携会
員／愛媛大学長）

13:45 報告1「縮小社会を前提とした持続可能な国土・地域を構想するために」
中澤 高志（日本学術会議地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会委員
長・第一部会員／明治大学経営学部教授）

14:15 報告2「多極分散型社会の実現に向けた農の役割」
武山 絵美（日本学術会議連携会員／京都大学大学院地球環境学堂教授／
愛媛大学大学院農学研究科教授）

14:45 休憩

15:00 パネルディスカッション「人口減少社会における地方都市のあり方をめぐ
って－多様な立場から考える地域の可能性と実践－（仮）」
モデレーター：

井口 梓（日本学術会議連携会員／愛媛大学未来価値創造機構副機構長）

パネリスト：

中澤 高志（日本学術会議地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会委員
長／第一部会員／明治大学経営学部教授）

武山 絵美（日本学術会議連携会員／京都大学大学院地球環境学堂教授／
愛媛大学大学院農学研究科教授）

山本 貴之（今治市産業部産業政策局海事都市今治推進課海事都市今治推
進係長）

山之内 崇（いよぎん地域経済研究センター地域戦略グループ特任部長）

大久保 武（愛媛大学未来価値創造機構准教授）

15:50 閉会挨拶

山下 政克（愛媛大学未来価値創造機構機構長）

司会： 野村 信福（愛媛大学未来価値創造機構副機構長）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認、第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「更なる劇的進化を続ける生成 AI の現状を理解しよう！」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会、情報学委員会 IT の生む諸課題検討分科会
2. 共 催：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所
3. 後 援：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構、国立研究開発法人情報通信研究機構、一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電子情報通信学会
4. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 24 日（木）10：00 ～ 17：10
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：

生成 AI は、学術、産業、教育、行政、医療・福祉、文化、日常生活に至るまで、社会のあらゆる領域に大きな影響を及ぼしつつある。日本学術会議では、これまで生成 AI に関するシンポジウムを 2 回開催し、いずれも高い反響を得た。そこで今回は、生成 AI の受容・活用をめぐる議論をさらに発展させ、「生成 AI のさらなる展開」をテーマとして公開シンポジウムを開催する。

最近、経済産業省はフィジカル AI（ロボット）を中心に約 3,500 億円の投下を発表した。その直前にはアンソロピックによるセキュリティホールを見つけ出すミトスが大きく報道された。更にその直前には、自動コード生成を強力に支援する Codex や Opus の発表が相次いだ、このように生成 AI のシンポはまさに日進月歩であることから、既に 2 回開催した経験をもとに、現状の生成 AI を多様な専門家から紹介し、理解を深めたいと考える次第である。

今日、生成 AI は、文章生成や情報検索支援にとどまらず、AI エージェント、AI 共同科学者、フィジカル AI、小型言語モデルなどへと展開し、研究、教育、産業、社会制度のあり方を大きく変えようとしている。一方で、思考能力の低下、AI リテラシー格差、専門職や教育現場におけるデジタル格差、知の蓄積の汚染、認知や意思決定への影響、労働や産業構造の変質といった課題も顕在化している。また、生成 AI の発展には、計算リソース、

データセット、エネルギー、情報基盤の確保が不可欠であり、ソブリン AI の観点から、国家や地域が自律的に AI を開発・活用できる環境をどのように整備するかも重要な論点である。

本シンポジウムでは、生成 AI のさらなる展開を、技術、教育、産業、研究、法制度、倫理、社会基盤の観点から多角的に検討し、人間社会と生成 AI の望ましい関係について議論する。

9. 次 第：

司会：大場 みち子（日本学術会議第三部会員／京都橘大学デジタルメディア学部デジタルメディア学科・教授）

挨拶

10:00 開会挨拶

喜連川 優（日本学術会議連携会員（特任）／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構長／東京大学特別教授）

10:10 『生成 AI のさらなる展開と社会へのインパクト』

黒橋 禎夫（日本学術会議第三部会員／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所所長／京都大学大学院情報学研究科特定教授）

10:30 『ソブリン AI と計算リソースの確保』

徳田 英幸（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人情報通信研究機構理事長／慶応義塾大学名誉教授）

10:50 『フィジカル AI』

稲見 昌彦（日本学術会議連携会員／東京大学先端科学技術研究センター教授）

11:10 『AI 共同科学者と学術研究の変容』

相澤 彰子（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所副所長・コンテンツ科学研究系教授）

11:30 『教育と生成 AI』

灘本 明代（日本学術会議連携会員／甲南大学知能情報学部教授）

休憩（90 分）（11：50～13：20）

13:20 『企業視点から見た AI ブーム』

吉濱 佐知子（日本学術会議連携会員／アマゾンウェブサービスジャパン合同会社シニアビッグデータコンサルタント）

13:40 『倫理、労働、格差：Sophisticated Slavery と AI 時代の不平等』

橋本 隆子（日本学術会議連携会員／千葉商科大学副学長・商経学部教授）

14:00 『専門家内のデジタル格差と法的論点』

山田 八千子（日本学術会議第一部会員／中央大学法科大学院教授／弁護士）

14:20 『知の蓄積の汚染と AI 生成物の品質評価』

湊 真一（日本学術会議連携会員／京都大学大学院情報学研究科教授）

14:40 『社会課題解決への AI 活用』

宮崎 久美子（日本学術会議連携会員／東京工業大学名誉教授）

休憩（20 分）（15：00～15：20）

15:20 パネル討論『生成 AI のさらなる展開：人間・社会・産業をどう設計するか』

モデレータ：喜連川 優（日本学術会議連携会員（特任）／大学共同利用
機関法人情報・システム研究機構長／東京大学
特別教授）

パネリスト：講演者＋下記メンバー

國井 秀子（芝浦工業大学客員教授）

中小路 久美代（日本学術会議連携会員／公立はこだて未来大学システム
情報科学部情報アーキテクチャ学科教授）

17:00 閉会挨拶

相澤 清晴（日本学術会議連携会員／東京大学大学院情報理工学系研究
科教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）

公開シンポジウム
「観光・科学・野生動物保全をつなぐ
—The Tourist Scientist Project の挑戦—」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同ワイルドライフサイエンス分科会、環境学委員会環境政策・環境計画分科会、環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：観光庁（調整中）
4. 日 時：令和8（2026）年9月26日（土）13:00 ～ 16:30
5. 場 所：東京大学農学部 中島董一郎記念ホール（東京都文京区弥生 1-1-1）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

近年、野生動物の保全は世界的な課題となっているが、保全活動に必要なデータや資金、人材は依然として不足している。一方で、国際観光は急速に回復し、世界各地の自然保護地域や野生動物生息地には多くの観光客が訪れている。これまで観光は自然環境への負荷として語られることも多かったが、近年では観光客自身が科学調査や保全活動に参加する「市民科学（Citizen Science）」の可能性が注目されている。

「ツーリスト・サイエンティスト・プロジェクト(The Tourist Scientist Project)」とは、観光客を単なる消費者ではなく、科学研究と自然保全の担い手として位置付ける新たな国際的取り組みのことである。このプロジェクトでは、観光客が旅行先で野生動物の観察記録を収集し、その情報を研究者や保全機関と共有することで、生物多様性のモニタリングや保全活動に貢献する仕組みの構築を目指している。また、地域住民、観光事業者、研究者、保全団体が連携し、観光と保全の両立を図る新たな社会システムの可能性を探っている。

本シンポジウムでは、ケニアにおいて野生動物保全と観光振興を両立させてきた実務家を招き、現場の経験と課題を共有するとともに、西アフリカにおける事例を交えなが

ら、日本の観光と科学、そして野生動物保全を結びつける新たな枠組みについて議論する。観光客が科学と保全に参加する未来像を提示し、持続可能な観光と生物多様性保全の実現に向けた学際的な対話の場としたい。

9. 次 第：

13:00 開会挨拶・趣旨説明

松本 晶子（日本学術会議連携会員／琉球大学国際地域創造学部教授）

13:15 「OECM をめぐる国際的議論と地域の保全現場からの経験・教訓の共有」

香坂 玲（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13:35 「Ol Pejeta Conservancy integrated conservation model:

Unveiling one of Kenya's conservation role models (オルペジェタ保護区に学ぶ：ケニアが誇る、自然と地域を守る最先端モデル)」

Prof. Geoffrey Wahungu (the Chief Conservation & Programs Officer at Ol Pejeta Conservancy) (同時通訳)

14:15 「衛星データから見る野生動物と自然環境：市民参加による観察の可能性」

祖父江 侑紀（奈良女子大学理学部助教）

14:35 休憩（20 分）

14:55 「From Safari Tourism to Biodiversity Stewardship: Kenya's Community Conservancy Model (サファリ観光から「自然の守り手」へ：ケニアが進める地域共生型の保護モデル)」

Dr. Mohanjeet Brar (Managing Director of Gamewatchers Safaris and Porini Camps) (同時通訳)

15:35 「ギニアの精霊の森におけるチンパンジー保全：野生動物保全の文化観光としての可能性」

山越 言（日本学術会議連携会員／京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）

15:55 総合討論「観光は野生動物保全に貢献できるか」

司会：松本 晶子（日本学術会議連携会員／琉球大学国際地域創造学部教授）

討論者：大沼 あゆみ（日本学術会議連携会員／城西大学経済学部特任教授／慶應義塾大学名誉教授）

講演者全員

16:25 閉会挨拶

香坂 玲（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

16:30 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認、第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「農学が創る未来：緑の革命 3.0」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会、食料科学委員会
2. 共 催：なし
3. 後 援：農林水産省、一般社団法人日本農学会、公益財団法人農学会、日本農学アカデミー、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、国立研究開発法人国際農林水産業研究センター、国立研究開発法人森林研究・整備機構、国立研究開発法人水産研究・教育機構、全国農学系学部長会議、東京大学大学院農学生命科学研究科（すべて予定）
4. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 26 日（土）13：00 ～ 17：30
5. 場 所：日本学術会議 6 A（1）（2）会議室（東京都港区六本木 7-22-34）
（ハイブリッド開催を予定）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨

日本学術会議農学委員会と食料科学委員会は、第 25 期に両委員会に所属する分科会からの意見を基に未来の学術振興構想として「変わりゆく地球環境と調和した持続可能な食料システムの構築のための学術振興」を取りまとめて登録した。その構想では、アグロフードチェーンすべての工程のグリーン化を意味する「緑の革命 3.0」を実現するために、陸海域を超越したデータ連携と解析、微生物から植物・動物・人類までの生命系の統合理解モデルを確立することを目指していた。その後、検討を進めた結果、食料生産は中心課題としながらも、さらにバイオマテリアル生産やネイチャーポジティブ活動を取り込みながら、一次産業、食品産業、そして環境問題を解決するビジネス領域を統合連携させた産業活動の振興も検討すべき課題として注目されることとなった。それは、現代の農学と未来の農学とを組み合わせ、人類の生活圏、経済圏が再生可能なバイオリソース（生物資源や生態系サービスなど）で支えられる領域を拡大する、真に持続可能な社会へのトランスフォーメーションを構想するものである。あらためてこの取り組みを「緑の革命 3.0」と

再定義したい。人類の生活・産業活動の地球レベルでのグリーン化は、気候変動問題の解決の一助ともなり、現代のサイエンスが取り組むべき最重要課題の一つである。

本シンポジウムでは、全農学領域の英知を結集して、社会構造を変革し、多様で分散型の社会を志向するパラダイムシフトや人と自然との共生社会の提案へとつなげるような構想の検討を進めたい。あわせてそれに係わる農学教育研究のあり方についても議論を行うこととする。

9. 次 第

司会：磯部 祥子（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13:00 開会挨拶

高山 弘太郎（日本学術会議第二部会員／豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授／愛媛大学大学院農学研究科教授）

■農学 150 年の成果と今後の展望（第一部）

13:10 第 1 報告「農学 150 年の振り返り」

中嶋 康博（日本学術会議第二部会員／日本栄養大学栄養学部教授）

■農学が創造する社会と産業に向けた課題（第二部）

13:30 第 2 報告「生産農学領域における課題」

土井 元章（日本学術会議第二部会員／京都大学名誉教授）

13:50 第 3 報告「森林科学領域における課題」

杉山 淳司（日本学術会議第二部会員／京都大学名誉教授）

14:10 第 4 報告「農業工学領域における課題」

後藤 英司（日本学術会議第二部会員／千葉大学大学院園芸学研究院特任教授）

14:30 第 5 報告「水産学領域における課題」

大越 和加（日本学術会議第二部会員／東北大学大学院農学研究科客員教授）

14:50 第 6 報告「畜産学領域における課題」

木村 直子（日本学術会議第二部会員／山形大学大学院農学研究科教授）

15:10 第 7 報告「獣医学領域における課題」

堀 正敏（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

15:30 第 8 報告「農芸化学領域における課題」

竹中 麻子（日本学術会議第二部会員／明治大学農学部農芸化学科教授）

《20 分休憩》

■総合討論（第三部）

16:10 「農研機構の挑戦」

中畝 良二（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構企画戦略本部長）

16:30 「農学教育の課題」

東原 和成（全国農学系学部長会議会長／東京大学大学院農学生命科学研究科研究科
長・教授）

17:25 閉会挨拶

渡辺 京子（日本学術会議第二部会員／玉川大学農学部教授）

10. 関係部の承認の有無： 第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム
「見解：サービス化社会における共創価値の尺度について」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：（内諾済）日本感性工学会、（依頼中）明治大学、サービス学会、経営関連学会協議会、日本消費者行動研究学会、日本マーケティング学会、日本マーケティング・サイエンス学会、組織学会、日本リハビリテーション医療 DX 学会、一般社団法人日本人間工学会、一般社団法人人間生活工学研究センター（HQL）、一般社団法人人工知能学会、一般社団法人情報処理学会
4. 日 時：令和8（2026）年9月27日（日）13:00 ～ 15:30
5. 場 所：明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント多目的室（東京都千代田区神田駿河台1-1）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：

近年、社会のサービス化が加速度的に進む中で、人々の価値の重心は経済的な物財の生産・所有から、知識・感情、活動・経験、関係性といった非経済・非物質的な便益へと移行しています。しかしながら、現在の制度設計や国家・企業レベルの指標体系は依然としてGDPや財務指標を中心に構築されており、生活世界で生じる価値共創の成果を十分に捉えられていません。

本シンポジウムでは、日本学術会議の社会科学、生命科学、工学の3つの委員会が共同で検討してきた「サービス化社会における共創価値の尺度」の内容をお伝えします。また、多様な分野の有識者をお招きして、最新の取組や事例を共有し、産官学の垣根を越えた議論を通じて、サービス化社会に適した指標の実現に向けた新たな連携の糸口を探ることを目的とします。

9. 次 第：

開会

13:00 開会挨拶

戸谷 圭子（日本学術会議第一部会員／明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科教授）

第1部「見解：サービス化社会における共創価値の尺度について」

◇第1部司会

未定

13:10 『価値共創を基盤とするサービス化社会』

戸谷 圭子（日本学術会議第一部会員／明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科教授）

13:40 『共創価値の工学的測定方法の現状と社会実装に向けた提言』

持丸 正明（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所フェロー）

休憩（10分）（14：10～14：20）

第2セッション「パネルディスカッション」

◇第2部司会

持丸 正明（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所フェロー）

14:20 モデレーター

持丸 正明（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所フェロー）

パネリスト

戸谷 圭子（日本学術会議第一部会員／明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科教授）

西村 訓弘（日本学術会議連携会員／三重大学大学院地域イノベーション学研究科教授・特命副学長（戦略企画担当）／宇都宮大学学術院教授・特命副学長）

和氣 純子（日本学術会議第一部会員／東京都立大学大学院人文科学研究科教授）

西川 奈緒（経済産業省商務情報政策局商務・サービスグループ サービス政策課長）

瀬木 英俊（ロート製薬株式会社 代表取締役社長）

閉会

15:20 閉会挨拶

持丸 正明（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所フェロー）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム

「フューチャー・アースの推進と連携：Future Earth Japan Report 2026 へ向けた
学術的課題の個別・横断的な整理（仮）」
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会地球環境変化の人的側面分科会、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 SDGs の進捗評価分科会、環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：フューチャー・アース日本委員会、大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所（予定）
4. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 27 日（日）13：00 ～ 16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
人新世における複雑に絡み合った地球環境問題の解決に向けて、2015 年にフューチャー・アースが本格始動したが、日本における学術的課題を、専門性と学際性、長期的なビジョンと短期的な目標の設定、多様な社会との連携の可視化の視点から個別・横断的に整理し、2030 年の SDGs の先と Well-being を見据えた地球環境問題の解決について議論する。
9. 次 第：
司会：近藤 康久（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所教授）

13:00～13:05 開会のあいさつ
沖 大幹（日本学術会議第三部会員／東京大学大学院工学系研究科教授）

【第1部】フューチャー・アースの成果

13:05～13:25 「専門性と学際性（仮）」

金谷 有剛（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境部門地球表層システム研究センターセンター長）

13:25～13:45 「長期的なビジョンだけではなく、短期的な目標の設定（仮）」

吉川 成美（日本学術会議連携会員（特任）／大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所上廣環境日本学センター・センター長・特任教授）

13:45～14:05 「多様な社会との連携の可視化（仮）」

山下 潤（日本学術会議連携会員／九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

【第2部】フューチャー・アースの展開

14:05～14:35 「フューチャー・アースの将来的課題（仮）」

安成 哲三（大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所顧問・名誉教授）

休憩 14:35～14:45

【第3部】パネルディスカッション

14:45～15:55

モデレーター：谷口 真人（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授）

パネリスト：

金谷 有剛（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境研究部門地球表層システム研究センターセンター長）

吉川 成美（日本学術会議連携会員（特任）／大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所上廣環境日本学センター・センター長・特任教授）

山下 潤（日本学術会議連携会員／九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

安成 哲三（大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所顧問・名誉教授）

蟹江 憲史（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授）

亀山 康子（日本学術会議連携会員／東京大学大学院新領域創成科学研究科附属サステイナブル社会デザインセンター教授）

江守 正多(日本学術会議連携会員／東京大学未来ビジョン研究センター教授／国立研
究開発法人国立環境研究所地球システム領域上級主席研究員)

岸本 充生(日本学術会議連携会員／大阪大学D3センター教授／社会技術共創研究セ
ンター長)

15:55～16:00 閉会のあいさつ

浅利 美鈴(日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地
球環境学研究所教授)

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連
絡会議

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）

公開シンポジウム
「生命科学データのオープンサイエンスの再構築」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議統統合生物学委員会・基礎生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 IUPAB 分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同ゲノム科学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会合同遺伝資源分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 27 日（日）13：00 ～ 18：05
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：予定あり（バイオインフォマティクス分科会、生物物理学分科会、IUPAB 分科会）

8. 開催趣旨：

近年、ゲノム、タンパク質立体構造、医療情報、バイオイメージング画像、化合物データなど、生命科学分野では多様かつ大規模なデータが急速に蓄積されている。これらのデータは生命科学のみならず、医学、工学、さらには社会科学にも大きな影響を及ぼす重要な研究基盤となっている。とりわけ AI 技術の急速な進展により、大規模データの共有と利活用は、未解明生命現象の解明、新規創薬、ゲノム解析、さらには国際共同研究を飛躍的に発展させる可能性を秘めている。

一方で、生命科学データは、個人情報保護、遺伝資源を巡る国際的な利益配分、産業競争力、安全保障などとも深く関わるため、単純な「オープン化」だけでは解決できない複雑な課題を抱えている。AI 時代の到来によってデータの価値と社会的影響は一層高まり、誰がデータにアクセスし、誰が利用を管理し、その成果や利益をどのように社会へ還元するのが、重要な論点となっている。

こうした状況を踏まえ、日本学術会議では提言「生命科学データのオープンな流通と活用推進に向けて」を取りまとめているところである。本提言では、生命科学の様々な分野をケーススタディとして、学術的・制度的・倫理的・経済的課題を整理す

るとともに、分野横断的な共通課題を抽出し、AI 時代にふさわしい統合的データガバナンスのあり方と、生命科学データのオープンな流通・活用を促進するための戦略的方向性を提示することとしている。

本シンポジウムでは、本提言を出発点として、研究者、政策担当者、データ基盤関係者など多様な立場から議論を行い、AI 時代の生命科学におけるデータ共有のあるべき姿と、その実現に向けた課題について考える。

9. 次 第：

13：00 開会挨拶・趣旨説明

諏訪 牧子（日本学術会議連携会員／青山学院大学理工学部化学・生命科学科教授）

13:05 特別講演

倉田 佳奈江（文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長）他

14:00～14:10 休憩

14:10 「社会インフラとしてのバイオバンクにおけるデータガバナンスの現状と課題」

木下 賢吾（東北大学大学院情報科学研究科教授）

14:40 「生物資源の現状とあるべき姿、特に DSI 問題について」

鈴木 睦昭（日本学術会議連携会員/情報システム研究機構国立遺伝学研究所産学連携・知的財産室長・リサーチ&イノベーションブリッジセンターABS 支援室長）

15:10 「メタゲノムデータの価値と産業利用の未来」

山田 拓司（東京科学大学生命理工学院教授／株式会社メタジェン取締役副社長 CTO）

15:40～15：45 休憩

15:45 「タンパク質構造データのオープンな利活用維持と今後の課題」

栗栖 源嗣（大阪大学蛋白質研究所蛋白質構造データバンク構築研究室教授）

16:15 「バイオイメージングデータのオープン化への現状と今後の在り方」

永井 健治（日本学術会議連携会員／大阪大学産業科学研究所教授）

16:45 「AI に対応するデータベースの在り方とデータ統合の技術開発」

片山 俊明（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構特任教授）

17：15～17：25 休憩

17：25 パネルディスカッション

モデレータ（女性研究者 1 名を予定）

各講演者

18：00 閉会挨拶

上田 昌宏（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院生命生命機能研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「公認心理師の国家的活用 の 在り方 ～ 職域の拡大と 技 量 向 上 の 責 務」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会・社会学委員会・法学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同心身の健康・適応に対する心理学的支援分科会
2. 共 催：一般社団法人日本認知・行動療法学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 27 日（日）13：15 ～ 15：15
5. 場 所：サンシャインシティ会議室
（東京都豊島区東池袋 3-1 サンシャインシティ
ワールドインポートマートビル 5 F コンファレンスルーム）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：

心理学関連専門職の国家資格である公認心理師は、国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的として、公認心理師法によって定められた 4 つの行為を行うことを業とする者とされている。あわせて同法附則第 5 条においては、政府は、この法律の施行後五年を経過した場合において、この法律の規定の施行の状況について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする、とされており、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課公認心理師制度推進室がその主たる対応にあたっている。そして、2024 年 7 月に「公認心理師法附則第 5 条に基づく対応について」を社会保障審議会障害者部会に提出し、これを最終報告としている。

本分科会においては、当該の最終報告を踏まえ、公認心理師の主要な活動分野における専門家の意見を参照しながら、公認心理師の活動実態と課題を明らかにし、意思の表出（報告）を公表する予定である。本シンポジウムにおいては、この意思の表出（報告）を踏まえ、活動分野の専門家の更なる見解、心理学学術団体の見解、公認心理師関連職能団

体の見解、基礎心理学者の見解等を交換し、様々な角度から、公認心理師の今後のあるべき姿の議論を深めることを目的とする。

9. 次 第：

- 13：15 開会
 司会
 佐藤 徳（日本学術会議連携会員／富山大学人文学部教授）
 田上 明日香（早稲田大学人間科学学術院准教授）
- 13：15～13：25 開会挨拶・趣旨説明
 嶋田 洋徳（日本学術会議第一部会員／一般社団法人日本認知・行動療法学会理事／早稲田大学人間科学学術院教授）
- 13：25～13：40 話題提供 1 保健医療分野の現状と課題
 熊野 宏昭（日本学術会議連携会員／早稲田大学人間科学学術院教授）
- 13：40～13：55 話題提供 2 福祉分野における現状と課題
 下山 真衣（信州大学学術研究院教育学系准教授）
- 13：55～14：10 話題提供 3 養成カリキュラムにおける現状と課題
 古川 洋和（鳴門教育大学大学院心理臨床コース准教授／公認心理師養成大学連絡協議会事務局長）
- 14：10～14：25 話題提供 4 日本心理学諸学会連合の立場から
 金子 周平（一般社団法人日本心理学諸学会連合副理事長／九州大学大学院人間環境学研究院准教授）
- 14：25～14：35 指定討論 1 認知行動療法の立場から
 戸ヶ崎 泰子（一般社団法人日本認知・行動療法学会副理事長／宮崎大学大学院教育学研究科教授）
- 14：35～14：45 指定討論 2 基礎心理学の立場から
 浅野 倫子（東京大学大学院人文社会系研究科准教授）
- 14：45～15：15 質疑応答・総括・閉会挨拶
 嶋田 洋徳（日本学術会議第一部会員／一般社団法人日本認知・行動療法学会理事／早稲田大学人間科学学術院教授）
- 15：15 閉会

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「現代社会における多様なリスクに対処する法とガバナンスのあり方」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会リスク社会と法分科会、環境学委員会環境政策・
環境計画分科会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 28 日（月）13：00 ～ 17：30

5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリット開催）

6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

7. 分科会等の開催：未定

8. 開催趣旨：

現代社会は、科学技術が発達する中、様々なリスクに囲まれている。現在生起している多様なリスクについて、その抑止と受容、すなわちガバナンスはどのように行われるべきか。

本シンポジウムでは、環境リスク、デジタルリスク、感染症リスク、人口減少社会のリスクを取り上げ、各リスクの特徴を踏まえたガバナンスのあり方について、リスク学及び法学の立場から考察する。

9. 次 第：

司会 川和 功子（日本学術会議連携会員／同志社大学法学部教授）

13:00 挨拶
大塚 直（日本学術会議第一部会員／早稲田大学法学学術院教授）
13：05 『リスク社会と民主主義』
中山 竜一（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院法学研究科教
授）

- 13:25 『現代社会が抱える様々なリスクとそれに対する対応—環境リスクへの対応を中心として』
大塚 直（日本学術会議第一部会員／早稲田大学法学学術院教授）
- 13:50 『デジタル化に伴うリスクと対応』
千葉 恵美子（日本学術会議連携会員（特任）／大阪大学大学院招聘教授／名古屋大学名誉教授）
- 14:15 『コメント』 未定
- 14:35 QA
- 14:40 休憩
- 14:55 『感染症リスクと対応』
米村 滋人（日本学術会議連携会員／東京大学大学院法学政治学研究科教授）
- 15:20 『コメント』 未定
- 15:40 QA
- 15:45 『地方での人口減少リスク、気候変動災害リスクと対応』
山下 竜一（日本学術会議連携会員／専修大学法学部教授）、
亘理 格（日本学術会議連携会員／北海道大学名誉教授）
- 16:10 『コメント』 未定
- 16:30 QA
- 16:35 『質疑応答・ディスカッション』
報告者全員
- 17:05 『総括的コメント、閉会挨拶』
大塚 直（日本学術会議第一部会員／早稲田大学法学学術院教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認、第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「環境問題の解決と持続的水産業の両立を目指すブルーエコノミー
—気候変動対策を組み込んだ新たな水産業への科学的貢献を探る—」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会水産学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学分科会
2. 共 催：水産・海洋科学研究連絡協議会、日本農学アカデミー、公益社団法人日本水産学会
3. 後 援：一般社団法人大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、国立研究開発法人水産研究・教育機構、一般社団法人水産海洋学会、日本付着生物学会、日本魚病学会、国際漁業学会、日本ベントス学会、一般社団法人日本魚類学会、地域漁業学会、日仏海洋学会、一般社団法人日本海洋学会、日本水産増殖学会、マリンバイオテクノロジー学会、日本水産工学会、日本プランクトン学会、漁業経済学会、日本藻類学会、日本海洋政策学会
4. 日 時：令和8（2026）年9月30日（水）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

水産業は重要な食料生産活動であるにもかかわらず、環境科学の分野では海洋での環境問題を引き起こすネガティブ要素の一つとして考えられてきた。それが近年では、ブルーカーボンの普及など、近年の環境へ配慮した水産業の取組が社会での認識を変えつつある。喫緊の課題である温暖化対策・生物多様性保全に対する水産業の貢献が注目を浴び、世界中で食料生産と気候変動対策の両軸性への期待が高まりつつある。

日本学術会議食料科学委員会水産学分科会は、2022年に「水産からカーボンニュートラルの未来を展望する」とのタイトルでシンポジウムを開催し、海草・海藻藻場による二酸化炭素貯留量算定技術の進捗状況、世界で拡大する海藻養殖の事例報告、始

まったばかりのカーボンクレジット制度の動向、カーボンフットプリント算定等の議論を行った。その後、海外では海藻養殖の更なる拡大とともに非食用利用の市場が構築されつつあり、国内では海草・海藻藻場が2024年4月、我が国の温室効果ガスインベントリに正式に登録された。また、2025年2月に閣議決定された新たな温暖化対策計画では、2050年カーボンニュートラルに向けて農林水産業における二酸化炭素吸収量の数値目標が掲げられた。海洋・ブルーカーボンでは2035年に100万トン、2040年に200万トンと目標値が具体化し、この達成には海藻養殖や沖合での大規模海藻育成による吸収源拡大も視野に入れた活動が必要とされている。そのため、これらの活動による既存の水産業への影響把握も含め、新しい脱炭素型水産業の構築は待ったなしの段階に進みつつある。

そこで本シンポジウムでは、ブルーカーボン分野の最近の研究進展と社会実装の動向、見えてきた問題点等を確認するとともに、脱炭素・循環型社会の推進において、今後生じる水産業への期待や社会的課題について整理し、科学が果たすべき貢献について議論する。

9. 次 第：

司会：脇田 和美（日本学術会議連携会員／東海大学海洋学部教授）

13:00 開会の挨拶

大越 和加（日本学術会議第二部会員／東北大学名誉教授）

13:05 趣旨説明「温暖化対策と水産業成長化の架け橋となるブルーカーボン」

堀 正和（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所社会・生態系システム部副部長）

話題提供

座長：堀 正和（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人水産研究・教育機構水
産資源研究所社会・生態系システム部副部長）

13:20 「計測算定技術・カーボンクレジット制度の進展と動向」

桑江 朝比呂（国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技
術研究所特別研究主幹／ジャパンプルーエコノミー技術研
究組合理事長）

14:00 「他分野企業と水産業との連携によるブルーカーボン活用の取り組みと課
題 その1：藻場再生・拡大の現場から」

小杉 知佳（日本製鉄株式会社先端技術研究所環境基盤研究部課長）

14:25 「他分野企業と水産業との連携によるブルーカーボン活用の取り組みと課
題 その2：海藻養殖の現場と拡大に向けて」

山下 哲也（トヨタ自動車株式会社環境エンジニアリング部グループ長）

14:50 「社会普及の動向と課題：日本のマスメディアは、誰にどう伝えているか」

榊 太一（同志社大学ハリス理化学研究所助教）

15:15 休憩（10分）

総合討論「温暖化対策と水産業成長化の両立を実現していくために」

15:25 ファシリテーター：

牧野 光琢（東京大学大気海洋研究所教授／笹川平和財団海洋政策研究所所長）

パネリスト：

堀 正和（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所社会・生態系システム部副部長）

桑江 朝比呂（国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所特別研究主幹／ジャパンプルーエコノミー技術研究組合理事長）

小杉 知佳（日本製鉄株式会社先端技術研究所環境基盤研究部課長）

山下 哲也（トヨタ自動車株式会社環境エンジニアリング部グループ長）

榊 太一（同志社大学ハリス理化学研究所助教）

芳野 正（国立研究開発法人水産研究・教育機構理事長）

伊藤 進一（東京大学大気海洋研究所教授）

東海 正（日本学術会議連携会員／東京海洋大学名誉教授）

八木 信行（日本学術会議連携会員／東京大学特命教授室特命教授）

脇田 和美（日本学術会議連携会員／東海大学海洋学部教授）

原田 尚美（日本学術会議連携会員／東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センター教授）

16:55 閉会の挨拶

古谷 研（日本学術会議連携会員／東京大学名誉教授／公益財団法人海洋生物環境研究所顧問）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「デジタル・AI が拓くスマート歯科医学・歯科医療の未来」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会、歯学委員会臨床系歯学分科会、歯学委員会病態系歯学分科会、歯学委員会基礎系歯学分科会
2. 共 催：公益社団法人日本矯正歯科学会
3. 後 援：日本生命科学アカデミー（申請予定）
4. 日 時：令和 8（2026）年 10 月 15 日（木）15：45 ～ 17：15
5. 場 所：パシフィコ横浜国立大ホール（神奈川県横浜市西区みなとみらい 1 丁目 1-1）
オンライン配信あり
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

本シンポジウムは、公益社団法人日本矯正歯科学会との共催により、一般市民向け公開企画として開催され、デジタル技術と AI がもたらす歯科医学・歯科医療の最前線を、第一線の研究者の講演を通じてわかりやすく紹介し、未来の医療の姿を共に展望することを目的とする。超高齢社会において、「健康寿命」及び「幸福寿命」の延伸を支える鍵として口腔の健康が注目される中、歯科医療は従来の治療中心から、予防・予測・先制へと大きく変革しつつあり、その基盤として AI、ビッグデータ、バイオインフォマティクス等を融合したデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進が不可欠である。

本シンポジウムでは、今後の歯科医療及び歯学研究において AI を活用する意義と課題、画像生成 AI や AI エージェントを活用した材料開発、骨のリモデリングや代謝を再現する *in silico* バイオメカニクスなど、分野横断的な最先端の知見が紹介される。これらは、歯科医学と情報科学、材料科学、生命科学の融合により、新たな医療の可能性が切り拓かれつつあることを示すものである。

専門性の高い研究内容を一般市民にも開かれた形で共有し、「食べる・話す・暮らす」という人間の基本的営みを支える歯科医療の価値を再認識するとともに、AI 時代における医療のあり方を共に考える場とする。学術と社会をつなぐ対話を通じて、誰もが生涯にわた

り健やかで豊かな生活を享受できる未来社会の実現を目指す。

9. 次 第：

1) 開会挨拶

15:45 村上 伸也（日本学術会議第二部会員／大阪大学名誉教授）
新井 一仁（公益社団法人日本矯正歯科学会理事長／日本歯科大学
生命歯学部歯科矯正学講座教授）

2) 講演

座長

山城 隆（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院歯学研究科教授／公益社
団法人日本矯正歯科学会診療ガイドライン策定委員会委員長）

後藤 多津子（日本学術会議連携会員／東京歯科大学歯科放射線学講座教授）

16:50 『AI が拓く歯科医学研究の新展開と今後の展望』

山口 哲（大阪大学大学院歯学研究科教授）

16:15 『材料開発における画像生成 AI および AI エージェントの可能性』

小山 敏幸（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人物質・材料
研究機構構造材料研究センター計算組織設計グループ
NIMS 招聘研究員）

16:40 『骨リモデリングのデジタル再構築』

安達 泰治（日本学術会議連携会員／京都大学医生物学研究所副所
長・教授）

16:05 まとめ

3) 閉会挨拶

17:10 樋田 京子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究
院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授）

コーディネーター：森山 啓司（日本学術会議第二部会員／東京科学大学大学院医歯学総
合研究科顎顔面矯正学分野教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）

公開シンポジウム
第 21 回防災学術連携シンポジウム
『地域における災害対応力をどう高めるか』
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議防災減災学術連携委員会
2. 共 催：一般社団法人防災学術連携体
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 10 月 17 日（土）～ 10 月 18 日（日）
（2 日のうちのいずれか 90 分枠）
（防災推進国民大会 2026（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民
会議）の期間内に開催）
5. 場 所：オンライン開催
※防災推進国民大会 2026 の中の一企画案
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：なし
8. 開催趣旨：
鳥取県西部地震、鳥取県中部地震、西日本豪雨など中国地方等における各種災害の経
験を踏まえ、災害時の応急対応における課題や重要な視点、防災体制や対策について、
最新の知見や情報を、関連する学術分野の専門家や行政と連携して発信します。そして
地域における災害対応力を高めていくことにつなげることを目的とします。
9. 次 第：所要時間 90 分間

司会：山本 佳世子（日本学術会議連携会員／電気通信大学大学院情報理工学研究科教
授）

永野 正行（日本学術会議連携会員／東京理科大学創域理工学部建築学科教授）

- (1) 開会のあいさつ：竹内 徹（日本学術会議第三部会員・防災減災学術連携委員会委員長／東京科学大学名誉教授）（2分）
- (2) 趣旨説明：小澤 一雅（一般社団法人防災学術連携体代表幹事／公益社団法人土木学会会長／政策研究大学院大学特別教授）（2分）
- (3) 災害対応全般（仮）：池内 幸司（一般財団法人河川情報センター理事長／東京大学名誉教授）（15分）
- (4) 災害関連死関係（仮）：酒井 明子（日本災害看護学会／福井大学名誉教授）（15分）
- (5) ライフライン関係（仮）：楢田 泰子（神戸大学教授）（15分）
- (6) まちづくり関係（仮）：久田 嘉章（日本学術会議連携会員／工学院大学教授）
（15分）
- (7) 中国地方における防災体制等（仮）：未定（国土交通省中国地方整備局防災担当）（15分）
- (8) 質疑応答（8分）
- (9) 閉会のあいさつ：米田 雅子（一般社団法人防災学術連携体代表幹事／防災推進国民会議議員／宇都宮大学理事）（3分）
10. 関係部の承認の有無：課題別委員会のため無
11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム
「大型プロジェクトによるバイオマテリアル研究開発」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議材料工学委員会、材料工学委員会・臨床医学委員会・歯学委員会・化学委員会合同バイオマテリアル分科会
2. 共 催：一般社団法人日本バイオマテリアル学会
3. 協 賛（予定）：一般社団法人日本人工臓器学会、一般社団法人日本歯科理工学会、公益社団法人日本金属学会、公益社団法人日本セラミックス協会、一般社団法人繊維学会、公益社団法人高分子学会、一般社団法人日本 MRS、一般社団法人日本再生医療学会、日本 DDS 学会、一般社団法人日本骨代謝学会、一般社団法人ライフサポート学会、一般社団法人スマートプロセス学会、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）
4. 日 時：令和 8（2026）年 11 月 10 日（火）9：00 ～ 11：30
5. 場 所：神戸国際会議場（兵庫県神戸市中央区港島中町 6-9-1）
6. 一般参加：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：無
8. 開催趣旨：
バイオマテリアルの研究開発に、大型プロジェクトは不可欠である。これまで大型研究費に焦点を絞ったシンポジウムは存在しなかった。医療機器、人工臓器、機能分子などの素材となるバイオマテリアルの研究開発には、材料科学・工学、分子化学、機械工学、生体工学、生命科学、臨床医学、歯学、薬学などの学術融合とこれらの分野に所属する研究者の相互理解が必須である。本公開シンポジウムでは、大型プロジェクトによる学術研究をバイオマテリアル・医療機器の研究開発に役立てる方策について討論し、今後の学術研究戦略を展望する。
9. 次 第：
9:00-9:05
開会挨拶・趣旨説明

中野 貴由（日本学術会第三部会員／大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻教授）

9:05-11:25

司会：大矢根 綾子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所材料基盤研究部門総括研究主幹）

岸田 晶夫（日本学術会議連携会員／東京科学大学名誉教授）

- (1) 「在宅医療を可能にする中空型マイクロニードルを用いた皮下間質液連続計測デバイスの開発：JSPS-学術変革領域研究 A：AMED-CREST」

高井 まどか（東京大学大学院工学系研究科教授）

- (2) 「サステナブル材料開発に対する生体材料学の新展開：JST-CREST」

山本 雅哉（東北大学大学院工学研究科教授）

- (3) 「骨分解と安定化に倣う新規ヘルスケアマテリアル：JST-CREST」

松本 卓也（日本学術会議連携会員／岡山大学学術研究院医歯薬学域教授）

- (4) 「超生体組織の創製と新機能の創出プロジェクト：JST-CREST」

秋吉 一成（日本学術会議連携会員／京都大学高等研究院特定拠点教授／京都大学名誉教授）

- (5) 「サステナブル社会実現に向けた組織工学の新展開：内閣府-ムーンショット型研究開発制度」

清水 達也（日本学術会議連携会員（特任）／東京女子医科大学先端生命医科学研究所所長・教授）

- (6) 「細胞外マトリックスのマルチモダリティ理解に基づく生体材料開発：JSPS-学術変革領域研究 A」

鳴滝 彩絵（東京科学大学総合研究院教授）

11:25-11:30

閉会挨拶

石川 邦夫（日本学術会議連携会員／日本バイオマテリアル学会理事長／九州大学大学院歯学研究院教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）

日本学術会議中国・四国地区会議学術講演会
「栄養学を起点とした大学の知と地域・産業の新しい共創エコシステム」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議中国・四国地区会議、国立大学法人徳島大学
2. 共 催：NPO 法人徳島医学研究・教育支援機構
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 11 月 14 日（土）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：徳島大学 先端酵素学研究所藤井節郎記念医科学センター 藤井節郎記念ホール（徳島県徳島市蔵本町 3 丁目 18 番地の 15）（予定）
ハイブリッド開催（事前登録制とし、オンラインでも配信（予定））
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：
本講演会では、栄養分野における分野横断的な連携や社会実装が十分に進んでいない現状を踏まえ、地域課題の解決や産業創出に向けた取組の必要性を課題として提示する。その上で、栄養を単なる食や健康支援にとどめず、生命科学、医療、一次産業、地域政策をつなぐ科学的基盤として捉え直す。ゲノム編集、スマート養殖、口腔機能、臨床栄養、在宅・地域連携、産業化、行政施策の各視点から、大学の知が地域課題の解決と新産業創出にどのように結びつくかを議論し、徳島発の栄養・健康エコシステムの可能性を展望する。また、本講演会を通じて、大学、自治体、医療機関、企業など多様な主体の連携を促進し、科学的知見に基づく持続可能な地域づくりと健康長寿社会の実現に向けた新たな共創のあり方を共有するとともに、地域から全国へ展開可能なモデル形成についても考察する。
9. 次 第（予 定）：
（1）開会挨拶
13：00 ～ 13：15

(未定) (日本学術会議会長または副会長) ※法人化後に調整予定
松木 均 (徳島大学理事・副学長)

(2) 趣旨説明

13:15 ~ 13:25

安友 康二 (日本学術会議第二部会員、徳島大学大学院医歯薬学研究部教授、徳島大学副理事)

(3) 講演

13:25 ~ 13:50 「ゲノム編集で食の上流を変える ―孵化前雌雄判別・感染症耐性が拓く持続可能な畜産―」

竹本 龍也 (徳島大学先端酵素学研究所教授、株式会社セツロテック代表取締役会長)

13:50 ~ 14:15 「餌料藻類培養から牡蠣養殖までをデータで繋ぐ：徳島大学との共創がもたらす水産イノベーション」

岩本 健輔 (株式会社リブルCTO)

14:15 ~ 14:40 「『食べる』を支え健康へと繋ぐ歯科的アプローチ」

松山 美和 (日本学術会議連携会員、徳島大学大学院医歯薬学研究部教授)

14:40 ~ 14:50 休憩

14:50 ~ 15:15 「「エネルギー密度」で生涯によりそう無理のない食べ方の「コツ」」

奥村 仙示 (同志社女子大学生活科学部准教授)

15:15 ~ 15:40 「臨床栄養の社会実装に向けた取り組み」

山岡 一平 (株式会社大塚製薬工場メディカルフーズ研究所所長)

15:40 ~ 16:05 「徳島県における食と健康～well-beingの持続的実現に向けて～」

上田 紘嗣 (徳島県副知事)

16:05 ~ 16:15 休憩

16:15 ~ 16:50 パネルディスカッション

司会：北岡 和義 (徳島大学教養教育院教授)

(4) 閉会挨拶

16:50 ～ 17:00

薮田 ひかる（日本学術会議第三部会員・中国・四国地区会議代表幹事、広島大学大学院先進理工系科学研究科教授）

11. 企画・運営責任者：薮田 ひかる（日本学術会議第三部会員・中国・四国地区会議代表幹事、広島大学大学院先進理工系科学研究科教授）

12. 関係部の承認の有無：科学者委員会

13. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会
「GXで拓くカーボンニュートラル社会（仮題）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議九州・沖縄地区会議
2. 共 催：大分大学
3. 後 援：大分県、大分市 ※予定
4. 日 時：令和 8（2026）年 12 月 23 日（水）14：00 ～ 16：20
5. 場 所：J:COM ホルトホール大分 小ホール ※予定
（大分県大分市金池南一丁目 5 番 1 号）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

近年、低炭素社会の実現に向けたグリーントランスフォーメーション（GX）が国内外で急速に進展し、持続可能な社会の構築は学術界のみならず地域社会においても重要な課題となっている。大分県は、地熱・温泉熱をはじめとする豊富な発電資源、日本一の源泉数と湧出量、農業用水路を活用した小水力発電、さらには森林資源を活かしたバイオマスなど、多様な再生可能エネルギー資源を有しており、GX の実現に向けて大きな潜在力を持つ地域である。

本講演会は、低炭素化・カーボンニュートラルの観点から、最新技術や自然資源の活用に関する学際的な取り組みを紹介し、参加者がカーボンニュートラル社会の将来像を主体的に考える契機を提供することを目的とする。講演では、GX やカーボンニュートラルに関する最先端の研究成果や実践事例を多角的に取り上げ、地域の資源や技術の可能性に触れながら、持続可能な社会の実現に向けて共に考える場としたい。

9. 次 第：

14:00～14:10 開会挨拶

（未 定）（日本学術会議会長または副会長）※法人化後に調整予定

北野 正剛（大分大学長）

14:10～14:35 講演 1 電力変換器と GX に関連する内容【仮題】

王 吉喆（大分大学理工学部准教授）

14:35～15:00 講演 2 微生物と GX に関連する内容【仮題】

鈴木 絢子（大分大学理工学部助教）

15:00～15:25 講演 3 交通 DX・GX に関する内容【仮題】

三村 泰広（大分大学理工学部准教授）

15:25～15:50 講演 4 自動車の動力源とカーボンニュートラルに関する内容【仮題】

山口 卓也（大分大学理工学部教授）

15:50～16:15 講演 5 大分県の産業 GX の取組について【仮題】

阿部 浩考（大分県商工観光労働部産業 GX 推進室室長）

※各講演 25 分間（それぞれ 5 分間の質疑応答を含む）

※講演順は変更の可能性あり

16:15～16:20 閉会挨拶

内田 誠一（日本学術会議第三部会員・九州・沖縄地区会議代表幹事／九州大学理事・副学長）

▶ 司会進行：三重野 英子（日本学術会議連携会員／大分大学医学部看護学科教授）

11. 企画・運営責任者：内田 誠一（日本学術会議第三部会員・九州・沖縄地区会議代表幹事／九州大学理事・副学長）

12. 関係部の承認の有無：科学者委員会

13. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

○国際会議の後援（1 件）

以下の国際会議について、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 2026 年電磁界理論の先進的応用に関する国際会議及び IEEE-APS 無線通信におけるアンテナ・伝搬に関する会議

主催：一般社団法人電子情報通信学会

期間：令和 8 年 9 月 14 日(月)～ 9 月 18 日（金）

場所：富山国際会議場・ANA クラウンプラザホテル富山

参加予定国数：50 か国・地域

申請者：ICEAA-IEEE APWC 2026 大会委員長・組織委員会委員長
小林 一哉

※国際委員会 7 月 30 日承認、同国際会議主催等検討分科会 7 月 13 日承認

○国内会議の後援（2件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 化学工学会第 57 回秋季大会特別シンポジウム「2050 年カーボンニュートラルへの道」

主催：公益社団法人化学工学会

地域連携カーボンニュートラル推進委員会

戦略推進センター CCUS 検討委員会

戦略推進センター 化工サステイナビリティフォーラム

期間：令和 8 年 9 月 9 日 13 日（日）

場所：広島大学東広島キャンパス（オンライン併用）

参加予定者数：約 300 名

申請者：公益社団法人化学工学会 会長 河瀬 元明

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

2. 化学工学会第 57 回秋季大会シンポジウム「経済安全保障と環境・資源・エネルギーの持続可能性」

主催：公益社団法人化学工学会

戦略推進センター 化工サステイナビリティフォーラム

共同主催：公益社団法人化学工学会

地域連携カーボンニュートラル推進委員会

期間：令和 8 年 9 月 9 日 16 日（水）

場所：広島大学東広島キャンパス（オンライン併用）

参加予定者数：約 50 名

申請者：公益社団法人化学工学会 会長 河瀬 元明

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

○今後の予定

●幹事会

第405回幹事会	令和8年8月21日（金）	13：30から
第406回幹事会	令和8年9月3日（木）	13：30から
第407回幹事会	令和8年9月18日（金）	13：30から

●総会

第197回総会	令和8年8月6日（木）～7日（金）
第198回総会	令和8年10月1日（木）～3日（土）（予定）